南会津のうりんニュース

平成20年10月（第125号）

今月の写真：芋煮汁

最近は、南会津も急に冷え込んできて、季節の移り変わりを肌で感じるようになってきました。

木枯らし吹く中、家にいるのも良いですが、寒いからこそ外で芋煮をしてみるのも良いかもしれません。南会津の美味しい野菜やキノコを食べて、心身共に暖まりましょう♪

今月の内容：

●今月のトピックス
・尾瀬の豊かな自然を全国に発信!!
・地域の資源は地域で守ろう!!
・森林セラピー先進地信濃町に学ぶ
・クラインガルテン先進地を訪れ見たモノは!!
・管内の新たな取り組みを学ぶ!!
　農業高校等連携事業・有機農産物広報活動事業
●この人を知りたい!!
・黄金色の絨毯（じゅうたん）を後世に伝えたい！
●コラム
・家庭菜園
●農林事務所からのお知らせ
・「森と大地の恵み体験ツアー南会津２００８」
・「有機農産物生産者と消費者との絆づくり交流会」

平成20年10月10日発行　福島県南会津農林事務所

今月のトピックス

木工クラフト、何つくる？

尾瀬の豊かな自然を全国に発信!!

檜枝岐村・南会津町ほか近県にまたがる尾瀬国立公園全域において、去る８月３０・３１日の２日間、「平成２０年度自然公園ふれあい全国大会」が開催されました。

この催しは、昨年８月３０日に田代山や会津駒ヶ岳を含む地域が「尾瀬国立公園」として２９番目の単独国立公園に指定され１周年を迎えるのを記念し、「つなげよう　はるかな尾瀬から　みんなの自然」を大会標語に、環境省と福島県・栃木県・群馬県・新潟県の関係４県とが共同で開催しました。

環境全般への配慮を大会の基本方針とし、オフシーズンでの開催や、公共交通機関・相乗り・エコカー利用での参加呼びかけ、地元産食品の提供（フードマイレージ※1への配慮）等により、「うつくしまエコイベント※2」認定の開催となりました。

式典は檜枝岐村を会場に、常陸宮同妃両殿下をお迎えし、功労者表彰等が行われました。また、村内では関係団体のパネル展示や広場でのブース出展が行われました。南会津農林事務所では、県の森林環境税に関するポスター等による来場者への説明や、福島県もりの案内人と共に木工クラフト教室を開催し、森林のはたらきや、自然への理解を深める取組みを行いました。

年間約３５万もの人々が尾瀬に入山し自然に親しんでいますが、一方でニホンジカによる食害や湿原の破壊など、様々な課題を抱えていることも現実です。今大会では尾瀬の魅力とともに、自然環境の大切さを改めて我々に問いかけたのではないでしょうか。

（所内各部）

※1　食料の輸送距離、重量×距離。地産地消によりフードマイレージ小＝エネルギー消費量が小さくなり、環境負荷を抑えることができる。

※2　福島県が環境に配慮する一定の要件を満たす行事等を認定するもの。

地域の資源は地域で守ろう!!

去る９月１４日（日）に下郷町音金集落周辺の水路等において、地域住民約１３０名が参加して「農地・水・環境保全向上対策」の勉強会が開かれました。この対策は、農業者だけでなく、地域住民、自治会、関係団体などが幅広く参加する活動組織を新たにつ

（２ページに続く）

ニジマスのつかみ取りをする子どもたち

（1ページから続く）
くり、これまでの保全活動に加えて、施設を長持ちさせるようなきめ細かな手入れや、農村の自然や景観などを守る地域共同活動を支援するものとして平成19年度から実施されています。

はじめに、きれいに清掃された農業用排水路にニジマス約300尾が放され、子どもからお年寄りまで歓声をあげながら魚のつかみ取りを行いました。

次に、南会津農林事務所職員からパネル形式で、田んぼや農村がいろいろな役割でみなさんの暮らしを支えていることを説明し、「農村を守るために何ができるかを考え、自分にできることを、何でもいいから実行してみよう」と唱えました。

この勉強会を通して、地域の農地・水・環境をみんなで守る大切さに理解を深め、さらに、人の輪と集落の和が広がり地域活性化につながることを期待しています。

（農村整備部）

農地・水・環境の大切さを学ぶ参加者

森林セラピーの先進地信濃町に学ぶ

9月8日、只見町において、南会津地方森林セラピー研究会主催の森林セラピースタッフ養成講座が開催され、会員及び森林セラピーに関心を持つ地域住民等41名が参加しました。

午前中は第1期森林セラピー基地に認定された長野県信濃町から癒しの森係の浅原武志氏と、森林療法研究会「ひとときの会」会長で、森林メディカルトレーナーの鹿島岐子（みちこ）氏を講師に迎え、信濃町における森林セラピーを活かした地域づくりの先進的事例について講演が行われました。講演の合間には「アイスブレイク」と呼ばれる雰囲気を和ませるゲームの紹介や、信濃町の素材を使ったハーブティーやお菓子の試飲・試食も行われ、参加者もリラックスして講演を聴くことができたようでした。午後は、青少年旅行村を会場に森林セラピーを取り入れた森林散策ガイドについて、4つの班に分かれて体験しながらガイド手法について学習しました。

浅原氏の講演の様子

アイスブレイクに挑戦する参加者

今回の講習会が、南会津地方における「森林の癒し」をテーマとした地域振興のひとつになることが期待されます。　（企画部・森林林業部）

クラインガルテン先進地を訪ねて見たモノは!!

自分たちのまちを何とか活性化したい!! それは、皆さん共通の想いではないでしょうか。

このたび、下郷町鶴ヶ池にクラインガルテンを開設しようということで、鶴ヶ池や十文字、落合の農家の方々や認定農業者の方々を中心に9月11日（木）新潟県にある「おぢやクラインガルテンふれあいの里」を見学しました。

“クラインガルテン”とは聞き慣れない言葉ですが、これはドイツ語で、日本語に訳すと「滞在型市民農園」です。つまり、簡易な休憩施設が付いている貸し出し農園です。利用者は、年間契約等で畑を借り、それぞれのペースで居住地と行き来しながら農作業を楽しみます。

小千谷のクラインガルテンは、首都圏を中心に多くの方々が利用しており、順番待ちの方々もいるほどの盛況振りです。利用者同士の交流もあり、視察日には一緒に栗を拾い収穫祭をしていました。

近隣住民も利用者に対して農作業の指導等を行い、利用者もまた地域の祭りや伝統行事へ積極的に参加し、相互の交流を大切にしています。

見学をした下郷町の皆さんも、「畑を荒らしたままにする利用者が出るのではないか」等、色々と心配はあったようですが、研修を通じて利用者の声を聞くことにより、幾分心配も軽くなったようです。

クラインガルテンは利用者だけで完結するのではなく、地元の理解と協力のもと取り組まなければなりません。

国道289号甲子道路も開通し、首都圏との新たな窓口となった下郷町。クラインガルテンをとおして一層の交流人口増加と笑顔人口の増加へと繋がることが期待されます

（企画部・農業振興普及部）

クラインガルテンを見学する参加者

この人を知りたい

黄金色の絨毯を後世に伝えたい！

（下郷町土地改良区理事長　弓田市治さん）

平成19年3月に下郷町土地改良区理事長に就任された弓田市治さんを紹介します。

弓田さんは、前理事長の逝去に伴い急遽就任されました。それまでは、第1理事（副理事長）として土地改良区の役員をされていましたが、理事長就任は、晴天の霹靂であったとのことです。

しかしながら、持ち前の何事に対しても積極的な姿勢で、理事長としての重責を果たされております。

理事長就任早々の仕事として、ほ場整備の倉楢地区と志源行地区の立ち上げにご尽力され、両地区とも本年度着工の運びとなり、肩の荷を下ろされたとのことでした。

なお、同土地改良区では、県営ほ場整備（経営体育成基盤整備事業　倉楢地区）を始めて取り組むこととなり、さぞかしご苦労があったものと思われます。

倉楢地区は、倉村と楢原の農地62haを整備するものであり、この大面積が再び黄金色の美田となることを楽しみにしているとのことでした。

今回の県営ほ場整備は担い手等へ農地を集積することが事業実施の要件であり、事業完了までこれらの要件をクリアしなければならず、組合員の方々の協力を得ながら進めてまいりたいとの抱負も語られておりました。

愛車を運転する弓田さん

理事長の立場を離れますと、7haの稲作と和牛繁殖等の農業を営まれています。

また、音金集落の区長及び音金農地・水・環境保全組合の副代表としての要職にもあり、日々忙しい毎日のようであります。

趣味は農業機械いじりで、昭和38年に県が導入したマッセイファーガソントラクターの払い下げを受けて、今でも現役として使用されており、その修理はプロ以上の腕前であります。

奥様であるトラさんは、蕎麦打ちの名人であり、ご馳走になりましたが大変おいしいおそばでありました。

これからもお体に気をつけていただき、土地改良区、音金集落のために頑張っていただきたいと思います。

（農村整備部）

管内の新たな取り組みを学ぶ!!
農業高校等連携事業・有機農産物広報活動事業

農林事務所では毎年、県立田島高校環境科学科2年生の皆さんを対象に、地域の先進的な生産者の取組を学ぶとともに農業への理解を深めていただく研修会を開催しています。今年は9月10日に下郷町を会場に2名の生産者を訪問しました。

まず、はじめは楢原地区の阿部純正さん。阿部さんは有機栽培でミニトマトを生産されており、南会津管内で初の有機JAS規格の認定を取得されています。阿部さんから有機栽培に取り組んだ経緯や技術的に難しい点、工夫した点などの説明を聞きました。

阿部さんのミニトマトハウスでの説明

その後、ビニールハウスに入り有機栽培のミニトマトの試食を行いました。生徒の皆さんからは「美味しい」との感想が聞かれました。

小山さんのフラワーハウスを見学

次は、塩生地区の小山力丸さん。小山さんはアルストロメリアやカラー、リンドウ等を栽培されており、JA会津みなみ下郷支店花き部会長を務められています。小山さんから南会津は花きの栽培に適している点など、管内の花き栽培の特徴などの説明を聞きました。

出席された生徒・先生の皆さん、暑い中お疲れ様でした。今回の研修が次代の担い手として、地域農業の理解につながることを期待しています。

（農業振興普及部）

今月のコラム　家庭菜園

私の実家は、二本松市針道（旧安達郡東和町）にあります、昔は父母が酪農・養蚕・稲作をしておりました。

長男である私が、農業を継がなかったことから、現在は、近所の農家の方々に大部分の農地をお願いしています。

また、実家の近くにある畑は、家庭菜園として使っています。

家庭菜園で栽培しているものは、夏は、キュウリ、ナス、ササギ、ピーマン、トマト、ミニトマト、シシトウ、ニンジン、ダイコン、トウモロコシ、モロヘイヤ、シソ、サトイモ等で、その他にハクサイ、キャベツ、ブロッコリー、ネギなどです。

昨年からは、トマトの雨よけをしています。

今年は、ホウレンソウ、シュンギク、コマツナ等の葉物を防虫ネットを使って栽培しました。防虫ネットは、無農薬で虫もつかず、出来は上々、我ながら満足のいく結果となりました。

畑の元肥えに有機肥料の豚堆肥を入れてみました。トマトは生育良好で、雨よけの効果もあってか、割れもなく完熟してから収穫することが出来ました。

堆肥を入れることにより、全ての作物が元気で、キュウリなどは収穫期間が長くなり、有機物がいかに大切かが実感できました。

サトイモの芽だしをプランターに植え付けてみましたが、直接植えたのに比べて出芽が遅かったのは、地温の違いだったのかと思いました。

緑彩鮮やかなゴーヤのカーテン

ゴーヤについて、沖縄では地這栽培にされていることをテレビで見て、空地で栽培してみましたが、奇形のおもしろい形のゴーヤも出来ました。

また、福島の自宅の南側には、ゴーヤの緑のカーテンを仕立てました。元肥には汚泥堆肥と油かすをいれました。夏の強い日差しを遮り、家の中から見る緑のカーテンはとても美しく、食卓にはおいしいゴーヤチャンプルが何度となく出てきます。あのほろ苦いゴーヤは私は好きです。食べて良し、見て良し、エコに良しと一石二鳥、三鳥にもなりました。

毎年、色々と試行錯誤を重ねていますが、前年と同じ様にやっても同じ物が出来るとは限らず、その年の気候にも左右され、農業がいかに厳しく、難しいかが分かりました。

農家の皆さんが、農業をする上で、いかにご苦労されているかも私なりにわかっているつもりですが、そんな農家の皆さんのために、これからも一生懸命頑張たいと思います。

農村整備部主幹　宗形弘康

農林事務所からお知らせ

県では、「ふくしま食と農の絆づくり運動」を展開しておりますが、農林産物生産者と消費者の絆づくりを目的とした次の交流会を開催します。詳しい内容は、後日、南会津農林事務所ホームページなどでお知らせしていきますので、是非ご参加ください。

森と大地の恵み体験ツアー南会津2008

と　き：11月1日（土）
ところ：南会津町南郷地域、只見町塩ノ岐地区

県民を対象に、貸切バスにて、南会津の食と農業に関する体験や試食、森林環境税についての学習をします。

お問い合わせ　南会津農林事務所　企画部　地域農林企画課
電話（0241）62-5252　FAX（0241）62-5256
E-mail：kikaku.af05@pref.fukushima.jp

有機農産物生産者と消費者との絆づくり交流会

と　き：11月3日（月・祝）
ところ：会津美里町

一般消費者の方（高校生以上）を対象に貸切バスにて、有機農産物生産者を訪問します。

お問い合わせ　南会津農林事務所　農業振興普及部　農業振興課
電話（0241）62-5253　FAX（0241）62-5256
E-mail：shinkouhukyuu.af05@pref.fukushima.jp

お問い合わせ先はこちら

〒967-0004
福島県南会津郡南会津町田島字根小屋甲4277-1
福島県南会津農林事務所　企画部　地域農林企画課
電話 0241-62-5252　FAX 0241-62-5256
電子メール　minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp
ホームページ　http://www.pref.fukushima.jp/norin-minamiaidu/

ふくしま食と農の絆づくり運動

みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。

PRINTED WITH SOY INK　この広報誌はSOY（大豆油）インキを使用しています。